

訂正箇所は紫文字にピンクマーカー、
追加事項は青文字に黄色マーカーで記載しています。
お手持ちの本紙と見比べて確認してください。

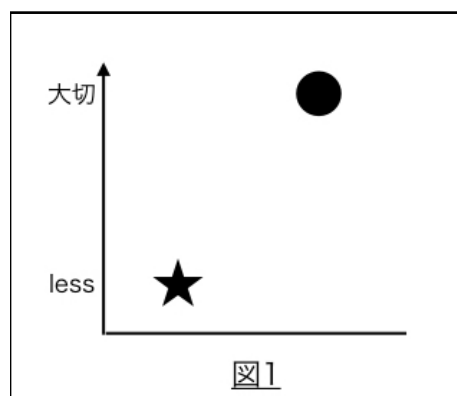
「than」以降には「ウマis魚」というように、誰が聞いてもおかしいと思える例が置かれるという点です。クジラを魚だと思っている人に対して、クジラが魚ではないことを伝える際に、「クジラを魚と言うなんて、イルカを魚というみたいなもんだよ」と言ったところで、伝わらないですね。「カマキリを魚というのと同じだよ」とか「貝を魚というのと同じだよ」のように、明らかに魚ではないものを例に出すから、文意が伝わるわけです。

●クジラの法則について②

ex) Being in love is **no less important than** studying (is).

(勉強が大切なのもと同じで、恋をすることは大切だ。)

これも「no more ... than ~」と考え方は同じです。まず、「no」がないものとして、考えてみましょう。「(大切ではないという点において) 恋をすること > 勉強をすること」つまり、恋をすることよりも勉強をすることの方が大切ですよということですね。



これを図に表したものが図1です。

縦棒の上に行くほど大切さの度合いが高く、下に引くほど低いと思ってください。「恋をすること」が★で、「勉強をすること」が●です。

「(less importantという点で) 恋 > 勉強」ですから、★が下の方に位置し、●が上の方に位置していますね。

確かに、特に受験生であれば、そう思っている人も多いでしょう。恋に関しては考え方は人それぞれですが、勉強に関しては誰が判断しても大切な行為ですよ。

しかし、ここに「no」が加わると、「恋★」と「勉強●」の差がゼロになります。つまり、**恋**のless importantさがなくなり、**勉強**の位置まで引き上げられるわけです。

図2をみてください。「(みんなが大切だと思っている) 勉強と同じくらい、恋は大切」という意味になるのです。

ここでも注意して欲しいのは、than以降には誰が聞いてもマトモな例えが置かれるということです。「恋をすることは大切ですよ」ということを伝えたい時に、「恋をすることは、ギャンブルをすることと同じくらい大切なんですよ！」と言っても「???'」となりますよね。

「勉強」とか「仕事」とか明らかに大切(今回は基準がimportantなので)と思われる例えを引き合いに持ってくるから、恋をすることの大切さが伝わるわけです。

